

日本語教育法「MISJ」をお奨めします

小 平 桂 一

(日本学術振興会・ボン研究連絡センター長、
前総合研究大学院大学学長、東大名誉教授)

留学生が 10 万人を突破して 30 万人計画が構想され、また、外国からの様々な労働力の移入が必須と考えられている時代になりました。こうして来日し我々と共に日本の市民社会の将来を担う人達には、できるだけ効率よく、できるだけ高度な日本語を身に着けて欲しいものです。言葉は固有の文化を反映し、グローバル時代には文化の個性こそが価値と力を生み出す源になると考えられるからです。

こうした新たな時代潮流を背景に、来日する外国からの人々がより効率的に正しい日本語を習得できる新たな学習体系が開発されました。一応の初等中等教育を受けて物事ある程度論理的に受け止めることのできる人達を対象に開発されたものです。幼児や子供の言語習得課程とは異なり、日本語の特徴を類型化して体系化し、順次それらの類型を学んでもらって使い方や応用を段階的に訓練していく方法です。効率的な学習を狙って段階的に課程が組み立てられていますので、覚えやすく忘れにくいのが特徴で、課程ごとが即戦力になっていきます。また、日本文化に根ざした日本語会話の本質を踏まえて、よりよい人間関係の構築を重視しています。したがって、これからの来日が期待されている科学技術関連の人材や介護関連職種の人材には最も適した革新的方法と言えるでしょう。

開発された先生は岩崎美紀子氏で、私の高校時代の後輩に当たります。岩崎さんはお子さん二人がちょうど母語を獲得する時期（0歳から5歳半）をご主人と共にアメリカで過ごされました。その後、子育て終了後の生き方を模索するなかで日本語教育と出会い、その後二十数年かけてこの実践的な教育法：MISJ（Mikiko Iwasaki's SYSTEMATIC JAPANESE）を創出されたのです。私は大学院時代を留学生としてドイツで過ごし、駆け出しの研究者としてアメリカで生活を送りました。妻がドイツ人で、3人の娘たちを日本で育てるのには、多くの苦労も経験しました。国立天文台長時代には、国境を越えて「すばる」大望遠鏡プロジェクトを実現する過程で、日本の国際化の難しさを味わいました。また大学長として留学生に接していて、MISJのような新しい日本語教育法の出現を心待ちにしてきました。最近になって MISJ を知り、早速に基本となる理論を岩崎美紀子氏の下で勉強しました。今では、この新たな教育方式の新時代に即した効能を確信しています。

科学技術者や介護支援者を外国から受け入れようとする企業や組織、外国からの学生の受け入れに積極的な高等教育機関、大学・専門学校などに、MISJ の採用を広くお奨めします。世界に開いた、強靱で文化豊かな日本の将来を夢見る全ての方々にお奨めします。

(2008年5月28日)